

釣り餌用ブツエビ・シラサエビ (商品名) の輸入禁止の実態と影響および 2016TCS シンガポール大会参加・発表報告

丹羽 信彰 (京都大学 理学部)

ブツエビ:ヌマエビ科:*Neocaridina* spp.

日本固有種は標準和名がミナミノヌマエビで学名が *Neocaridina denticulata denticulata* (西日本にいる固有種)の他に、韓国からはコウライヌマエビ:*Neocaridina denticulata koreana*、中国からシナヌマエビ:*Neocaridina denticulata sinensis*、最近では中国から *Neocaridina heteropoda heteropoda*, *Neocaridina palmata palmata* などが知られている。これらの外来種を一括して *Neocaridina* spp.と言う。

シラサエビ:テナガエビ科:

(1)スジエビ:*Palaemon paucidens*

日本列島に生息して千島列島、韓国、中国の淡水域にも分布する。

(2)カラテナガエビ(諸喜田 1979):*Palaemon sinensis*

中国からロシア、ミャンマーに生息しているが、日本には生息しない。一般に(1)、(2)を含め商品名シラサエビと呼ばれている。



中国から到着したばかりのブツエビ



輸送はゴカイの外箱が多い。

ブツエビ:ヌマエビ科:

シラサエビ:テナガエビ科



明石のT商店N社長の聞き取り(2016年7月29日20:00~22:20)によると平成28年7月14日14:00~15:30水産生物の新たな輸入防疫制度に係る説明会が開催された(関西国際空港 CIQ 合同庁舎5階税関大会議室)。水産生物の新たな輸入防疫制度は水産資源保護法に基づく輸入防疫、および持続的養殖生産保護法に基づく国内防疫で結論はシラサエビが許可制で実質の輸入禁止になり、ブツエビは今まで通りで禁止にならない。平成28年7月27日から新制度が開始されている。

日本での未確認の疾病が世界各地で発生・拡大しつつあり、我が国への侵入の危険性が増大している。事例:①エビの急性肝臓壊死症:クルマエビの稚エビで高い死亡率(最大100%)②カキヘルペス1型の一部変異型による感染症:マガキの稚貝で高い死亡率(最大100%)③ホタテガイのパーキンサス・クグワディ感染症で稚貝の高い死亡率(最大90%)など、深刻な被害が出ている。そこで、水産防疫体制の見直し・強化が必要でテナガエビ科エビ類が新たに追加され、輸入許可が必要になった。

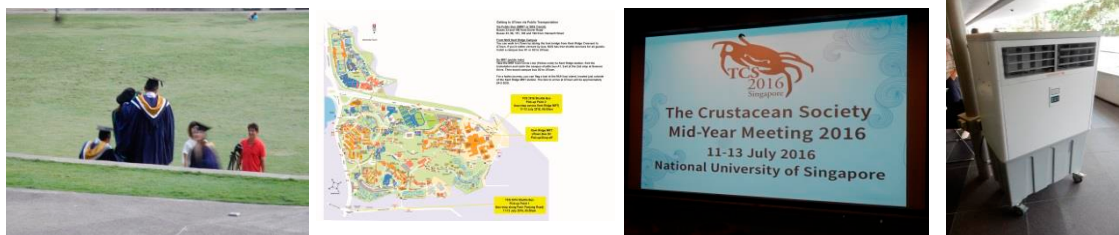
現状N社長からの情報:関空到着後、税関が12時間かけて調べて、その後、開封する。そうすると、冷水をかけて仮死状態で特製コンテナで空輸されたシラサエビは半数以上死んでしまう。現在でも、遠隔地の配達では、午前中、中国から関空に到着して、直ぐ伊丹空港(国内線)に運び、そこから高知空港に空輸する。高知は釣り餌用国産淡水エビが少ないので、需要が多い。夕方6時くらいに到着して、現在でも50%は死亡する。シラサエビが許可制になると、ほとんどが死亡してしまい、採算が取れなくなるので、関空の取り扱い業者は現在5社で他の業者も含めて中止せざるを得ない。実質上の輸入禁止になる。シラサエビが選ばれた理由は、琵琶湖で湖産エビとして食用にされているからで

はないかとN社長は推定する。一方、ブツエビは対象から外れたので、許可なく今まで通り輸入可能で、T商店は10月から輸入を再開する。業者が困るのは、輸入元の中国でブツエビとシラサエビを充分選別していないので、ブツエビのコンテナからシラサエビが混ざって出ると、輸入許可の対象になる。アオムシ、カラドジョウなどは対象に入っていないが、中国からの金魚は規制されている。

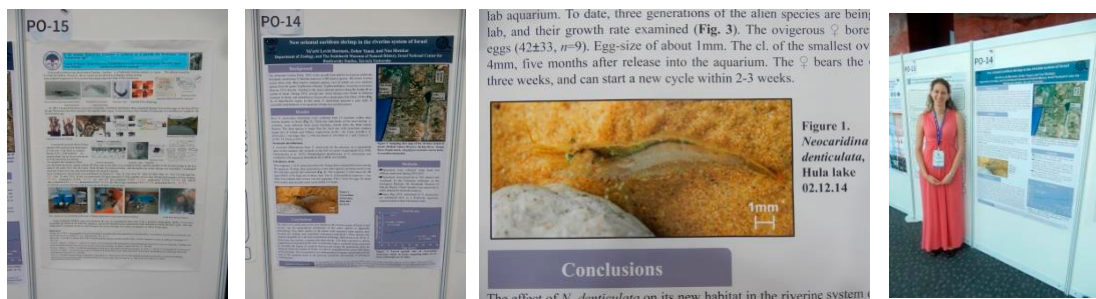
併せて、シンガポールで行われた国際甲殻類学会 TCS 2016 (7月11日-13日) に参加・発表した。イスラエルのヨルダン川水系で、*Neocaridina denticulata* が発見されて、すでに、かなりのエビが繁殖していることが分かり、一体世界のどこまで拡散しているのか？これらの大会の様子を報告した。



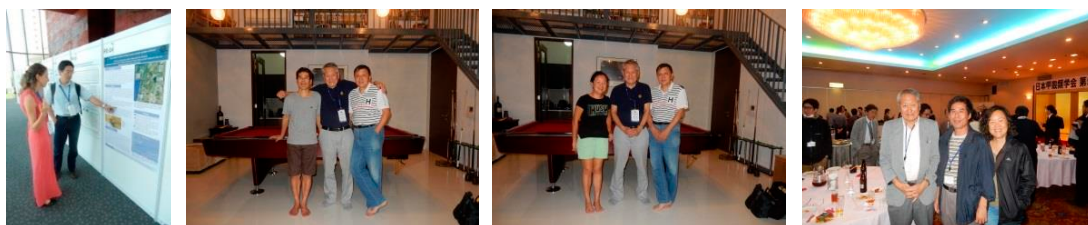
水産生物の新たな防疫制度の改正(説明会で税関で配布された資料)。海外におけるリスクの高い水産生物の疾病の発生状況。新たな手続の流れ。我が国の水産防疫の現状と課題。平成28年7月27日から新制度が既に開始されている。



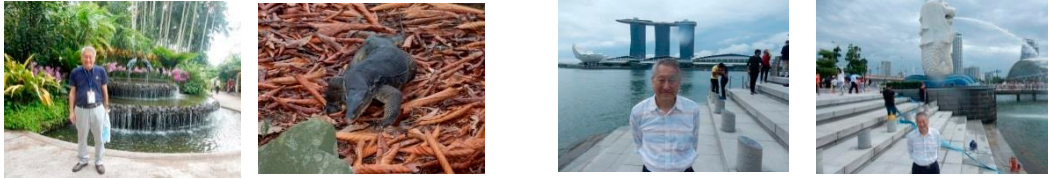
シンガポールの7月は卒業式の季節。大学は広大。蒸し暑いので大型送風機があった。TCS 国際学会受付。



PO-15 丹羽のポスター、隣のPO-14がイスラエルからの報告。報告者はイスラエルテルアビブ大学 PhD Ya'arit Levitt Barnats 女史。台湾の Shih 博士とDNAの議論が進む。



共同研究者の Cai 博士とともに、鹿児島大学で日本甲殻類学会に招聘された Cai 博士夫妻と。



シンガポール植物園とおとなしいオオトカゲ、 Marina Bay Sands Merlion Park Singapore.

本発表・報告は、鹿児島大において2016年10月22(土)-23日(日)に開催された日本甲殻類学会第54回大会において発表した。また、神戸大学において11月23日(水祝)に開催された兵庫県生物学会第20回研究発表会において発表した。